

自治体が主体の 虚血性心疾患重症化予防の 取り組み

虚血性心疾患は重症化することにより、我が国の死亡原因の第二位である心疾患を引き起こす可能性が高いことなどから、重症化予防が急務の課題となっている。愛媛県新居浜市では県や医師会、各医療機関と連携を図り虚血性心疾患重症化予防に積極的に取り組んでいる。本事業について関係者に話を伺った。

〔取材日：2023年 3月 6日〕 ＊記事内容、所属等は取材当時のものです。



愛媛県新居浜市



新居浜市のみなさん

市民の健康を守る重症化予防

新居浜市は、北は瀬戸内海、南は四国山脈が連なる自然豊かな臨海都市である。人口は約11万5千人（令和4年9月現在）、高齢化率は約30%で少子高齢化が続いており、市民の健康寿命を延ばすために、第2期新居浜市保健事業実施計画（データヘルス計画）、新居浜市健康増進計画「第2次元気プラン新居浜21」、愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり事業などに取り組んできた。

新居浜市福祉部国保課課長の菅さんは、「新居浜市では循環器疾患のリスクとなる高血圧と脂質異常症を重複して持っている市民が多く、市の保健師や管理栄養士などの関係者は危機感を抱いていました。そこで2007年から、新居浜市福祉部国保課に医療費適正化係を設置し、特定健診保健指導事業や重症化予防事業などの保健事業を進めてきましたが、このたび新たに新居浜市虚血性心疾患重症化予防事業に取り組むことになりました」と話す。本事業に取り組むきっかけは、2022年に愛媛県が策定した愛媛県循環器病対策推進計画に基づき開催された研修会だった。

「以前、愛媛大学の山口修教授（愛媛大学大学院医学

系研究科・循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 教授）の講演を聴講する機会があり、心不全をなんとかしたいという思いに共感しました。その後、愛媛県の研修会に参加し、本事業の企画を知りました。新居浜市としては、愛媛大学に学術的側面から支援をいただけることや、各種保険事業に関して多くの知見がある愛媛県、さらにはノバルティス ファーマ株式会社など、民間事業者の支援を受けられる機会はとても少ないので、ぜひ本事業に取り組みたいと手を挙げました」と菅さんは経緯を話す。

健康寿命延伸、 社会保障費負担の抑制の実現を

「本事業は特定健診データやレセプトデータから、虚血性心疾患の重症化リスクがある対象者を抽出して、医療機関への受診勧奨や保健指導を行なうことで行動変容を促し、適切な生活習慣の推進および継続的な治療に繋がります。これにより重症化を予防し、市民の健康寿命延伸、社会保障費負担の抑制を目指します」と話すのは保健師の高月さん。

具体的には、2022年後半に一般社団法人 新居浜市医

師会のご支援をいただき、本事業の説明会を開催しました。2023年3月には、特定健診データ、レセプトデータから発症または再発リスクのある対象者をリスク別に選定します。その後、かかりつけ医の合意をいただき、専門の保健師による受診勧奨と保健指導を6カ月実施し、その結果を分析します。「本事業により得られた成果を今後の虚血性心疾患重症化予防に活用し、新居浜市の市民が、“健康で生き生きと暮らせる町、住んでいるだけで元気になる町、新居浜市”を実現したいですね」と菅さんは話す。また、医療費適正化係設置の観点から言えば、新居浜市の虚血性心疾患の総医療費に占める割合は約2%となっており、本事業を通じてここから10%削減を目指したい考えだ。

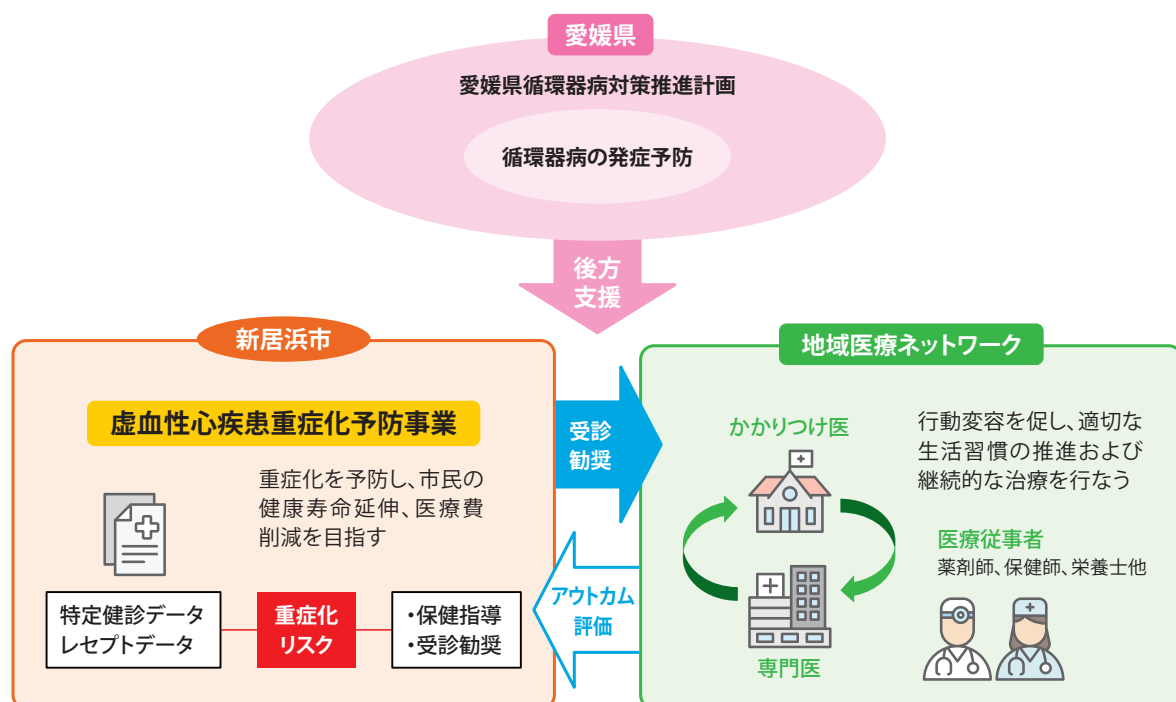
新居浜市ではこれまでに糖尿病性腎症重症化予防事業を進めてきた経験もあり、「医師会の先生方とは定期的に意見交換を行ない、コミュニケーションを取りやすい関係が築かれています。こうした経験が、今回の取り組みにも役立っています」と、高月さんは話す。

Hello!NEW新居浜を目指して

虚血性心疾患は、医療の介入と生活習慣の修正により重症化予防が期待されるが、未治療や治療中断も課題だった。菅さんは、「新居浜市は医療アクセスがよいところが強みですが、いつでも受診できる安心感から、明確な自覚症状が出ないうちは、受診を先延ばしにする傾向があるように感じています。本事業を通じて、市民が安心して健康に暮らしていけるように、適切な医療を受けることの大切さを伝えていくことも市の役割であると考えています」と話す。

新居浜市では以前から「Hello!NEW新居浜」をスローガンに掲げ、“人、モノ、コト、いろんなワクワクがあふれるまち”づくりを目指した活動も行なってきた。同市に根付く前向きな姿勢もまた、本事業の成果を後押ししている。市と医師会、事業者、市民が一丸となった本事業の取り組みに今後も期待したい。

■ 新居浜市の虚血性心疾患重症化予防の目的と位置づけ



愛媛大学 山口先生からのコメント

愛媛県は、心疾患と脳血管疾患を合わせた循環器病が死亡原因の第1位[※]であり、中でも心疾患は死亡全体の18%を占めています。

心不全は一度症状が出ると完治しないため、進展前の重症化予防が重要です。

本事業は心筋梗塞の発症リスク者(一次予防)に加え、重症化する可能性がより高い再発リスク者(二次予防)も対象としており、臨床的な意義が非常に高い事業です。

住民のレセプトデータと特定健診データを持つ自治体だからこそ実施可能な保健サービスです。

医療のみではカバーしきれない未受診者や治療中断者の受診勧奨や、かかりつけ医の治療や指導を専門の保健師が支援するため、医療施設側にとっても有用な取り組みです。

この事業が新居浜市から愛媛県全体に拡大され、県民一人ひとりの循環器疾患ケアが推進されることで、将来的に愛媛県の循環器病死亡者数が減少するものと、大変期待しています。

※出典:厚生労働省人口動態統計(令和2(2020)年)

愛媛大学大学院医学系研究科 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学講座 教授
山口 修 先生



愛媛県様からのコメント

新居浜市で取り組みが開始された虚血性心疾患の重症化予防事業は、愛媛県循環器病対策推進計画の中で、循環器病の発症予防に位置づけられているものです。そのため県としては、健康寿命の延伸・心血管疾患による年齢調整死亡率の減少と医療費適正化の効果を期待しながら、後方支援を行なっています。新居浜市には、産官学の枠組みで本事業に取り組むことのメリットを、ぜひ感じていただきたいと思います。

また、今後は愛媛県内の他の市町にも、この事業に取り組んでいただくよう支援するとともに、成果が上げれば県としての事業化も検討したいと考えています。

愛媛県保健福祉部医療政策監
河野英明 様

